

## 東北 春スキー三題

### 焼石岳（1548m）

5月09日（曇り、後晴れ）

つぶ沼（7：40）－銀名水（10：30）－  
山頂（13：30）－つぶ沼（16：40）

焼石岳は夏油山地の主峰で、通勤途中からも良く見えるので以前から登りたかった。

午後から晴れるとの予報で、行程の長さを考えて、7時前に家を出る。

いろいろ話題の多い胆沢ダムを超え、つぶ沼の駐車場には1時間くらいで着いた。思ったよりも雪がなくて、1時間近く、スキーを持って登る。道は緩やかだが、ひたすら長く、銀明水まで遠く感じた。ここから間違っ左の横岳の方に登ってしまい、ひどい藪に苦勞する。

稜線に出たが、風が強くて消耗する。山頂らしき所が分からず、時間をロスし、ようやく焼石の山頂に着いたときは、小屋から3時間近く経っていた。夏油の主峰だけあって、夏油三山、栗駒、遠くには鳥海山も良く見える。



焼石山頂より、栗駒方面

やたら潜る泥の登山道を下り、沢のようになった池の横の道を超えて、小屋の少し手前でようやくスキーが履けた。小屋に寄ると今晚泊まるという男性が一人いた。きれいな山小屋で泊ま

りたくなかったが、明日は仕事なので、後ろ髪を引かれながらも、早々に下降に入る。



銀名水の小屋

傾斜が緩く、上り下りも多いため、スキー向きではない。ようやくつぶ沼に着くと、朝は気づかなかったが、沼や森、ロッジなど実にきれいな所で、キャンプにきたら、気持ち良さそうな所だ。やっと夏油の主峰に登ることができた。

### 栗駒山（1628m）

5月15日（曇り、時々晴れ）

イワカガミ平（9：10）－山頂（10：20  
～30）－イワカガミ平（11：00）

先週、焼石岳から見た栗駒山を目指す。地震の影響で正規の道路が通れず、道がわかりにくかったが、それでも自宅から70分くらいでイワカガミ平に着いた。

有名だけあって人も多く、みんなの行く中央コースを登る。尾根ルートなので、雪はあまりないが、両側の沢には結構雪が残っている。山頂直下で完全に雪面となり、10分足らずで社のある山頂に着く。標識や鳥居には大量のえびのシッポが付着している。曇りで何も見えないので、写真を撮ってすぐ下の雪面の最上部でスキーを付ける。たくさんのギャラリーの見る中、左側の沢形めざして、大斜面を滑る。多少ガリガリだが、広いし、適度な傾斜で気持

ち良い。そのまま沢を滑り、途中ちょっと藪に入ったがほぼ問題なく、駐車場まで30分くらいで滑り降りることができ、非常に快適だった。帰路、車道横の地震の爪あとを見たが、すごい崩壊で、山体がまっぴたつに裂かれたような崩れ方をしていた。当分復旧できないだろうが、考えようによっては、産業の少ないこの地方で、この復旧工事は地元の道路関係者にとって、ありがたいのではないだろうか？

帰路、厳美溪に回ったが、なかなかの溪谷美で、ラフトなら可能性はあるかも知れないが、カヌーで降りたら死ぬだろうな、と思った。

栗駒山の帰路、少し物足りなかったので、水沢に東にある種山ガ原に回った。

ここは宮沢賢治の好きだった場所で、高原状のとても気持ちいい所だ。

道の駅に車を置き、歩いて回ることにする。もちろんそんな人間はおらず、みんな車で回る。歩いた方が気持ちいいのに、と思うのは私だけだろうか。

途中、賢治の碑に行く途中、牧場の中を歩いたが、実に気持ちいい。

種山ガ原は広々して、この時期、特に新緑が美しい。山頂のレーダー雨量計だが、物見山の山頂からは、岩手山、早池峰山、夏油連山、栗駒、五葉山など、ほとんど岩手中の山が見える。往路は車道だったが、帰路は気持ちいいカラ松林の中の散策道を降りて、車に戻る。

道の駅で、コシアブラとわらびを買い、部屋に戻ってコシアブラの天ぷらに挑戦したが、失敗。天ぷらは難しい。

(画像は誤って消してしまいました。残念！)

## 鳥海山 (2236m)

5月29日 (小雨 時々曇り)

百宅口 大清水 (9:40) - 山頂 (14:10~20) - 大清水 (16:20)

百宅口コースは美しいブナ林の写真を岳人で見て、ずっと行きたかった。ただ、GWでも道が開通しないため、関東からではなかなか行けなかったが、北上からだとは秩父くらいの感覚で行ける。午後から晴れるという天気予報と、日曜は仕事ということで、朝からぱっとしない厚い雲に覆われた空を眺め、とにかく6時に家を出る。少し迷い、県境付近でも小雨のために戻りかけたが、とにかく行こうを決め、横手を超え、湯沢を過ぎ、美しい田園風景が続くが、岩手の方が広々して明るい感じがする。こちらは雪国特有の重さがあるのだろうか？

家の作りも独特で、屋根の中央は雪を切る鋭角の三角になっている。途中から由利本庄の方に向かい、長い林道を走って、百宅口の登山口・大清水に着く。まだ霧雨が降っており、仕方なくカッパを着て、トボトボと歩き始める。周囲にはすでに残雪があり、大清水小屋を出て20mくらいで、登山道がよく分からない。標識も赤布もなく、まさかね！と思うが、「登山口敗退」というみっともない結果も頭に浮かんだ。でも蛇の道は蛇、何となく藪の薄そうな所を左の尾根に上がると赤布があった。この辺りのブナ林はうわさに違わず、とても美しい。



新緑のブナ林 (大清水)

霧雨の中、緩い尾根を何となく登っていくが、視界も効かず天気が回復しないと帰りが大変そうだ。1800mくらいでスキーに履き替え、少し行くとようやく雨がやみ、霧が晴れて頂上

稜線がすぐ上に見えた。ただここからが長く、稜線直下では足がつってしまい、頂上に着いた時はよれよれであった。



山頂にて



七高山からの下り

(松田記)

そう言えば、南面から来た時も最後が大変だったことを思い出す。しばし休憩後、山頂から滑降。快適でこたえられないと思ったのは僅かな間で、200mくらい降りると霧、さらに霧雨となる。登りのトレースを外すと、戻れなくなりそうなので、視界が効かない中を慎重に滑る。特にツボのトレースは確認しにくく、途中、一度トレースを失いかけた。この広い東山麓で迷ったら、とても大清水まで戻れる自信はないので、真剣にトレースを探す。ツボのトレースは、点では分かりにくいですが、線で追っていくと何とか見つけることができる。

折角のスキーの下りが全く楽しめず、ひたすら気を使う。(天気予報では午後は晴れ!)

コッタラ坂の少し下で夏道を見つけ、そのまま夏道を行ったほうがよほど安全なので、スキーを外して道を下降する。ところどころ、雪で道が消えているが大方外さずに大清水に着く。降りが強くなり、いったい今日の天気予報はなんだったんだと思う。小屋は家族連れや、山岳会の人でにぎやかだった。ブナの美しい大清水をあとの帰路につく。疲れた・・・。